

講義ユニット名	整形外科		所属科目名	器官・システム病態制御学Ⅱ
講義ユニット 責任者	あだち のぶお 安達 伸生	所属	整形外科 (内線 5230 )	
		メール	nadachi@hiroshima-u.ac.jp	
講義ユニット コーディネーター	くぼ ただひこ 久保 忠彦	所属	整形外科 (内線 5231 )	
		メール	kubot@hiroshima-u.ac.jp	
授業方法	講義形式。パワーポイントを使用して、スライドを呈示しながら進める。			
概要	<p>運動器は、体を支え、動かす組織である骨、関節、筋肉、靭帯、神経などの総称です。運動器の疾患は、新生児、小児、学童から成人、高齢者まであらゆる年齢層に及び、上肢（肩、肘、手）、下肢（股、膝、足）、脊椎（脊柱）・脊髄、骨盤など体の各部位に関連しています。先天性の変形、成長期の障害、スポーツ傷害、交通外傷、加齢による変形性関節症、リウマチ、骨粗鬆症、骨・軟部腫瘍など幅広い領域の疾患があります。治療も薬物療法、理学療法などの保存療法から手術療法に至るまで、幅広い知識と手技が要求されます。本ユニットの講義では、運動器の構造から、運動器疾患の診断、治療に至るまでの実際を理解し、それぞれの疾患に対する基本的な知識を得ることをめざします。</p>			
講義ユニットの 到達目標	<p>骨・軟骨・関節・靭帯の構造と機能を説明できる。  頭部・顔面の骨の構成を説明できる。  四肢の骨・関節を列挙し、主な骨の配置を図示できる。  椎骨の構造と脊柱の構成を説明できる。  四肢の主要筋群の運動と神経支配を説明できる。  骨盤の構成と性差を説明できる。  骨の成長と骨形成・吸収の機序を説明できる。  姿勢と体幹の運動にかかわる筋群を概説できる。  抗重力筋を説明できる。  徒手検査（関節可動域検査、徒手筋力テスト）と感覚検査を説明できる。  筋骨格系画像診断（エックス線、MRI、脊髄造影、骨塩定量）の適応を概説できる。  筋骨格系の生理学的検査の種類と適応を概説できる。  関節鏡検査を概説できる。  腰背部痛の原因を列挙できる。  腰背部痛を訴える患者の診断の要点を説明できる。  関節動揺を概説できる。  骨折の分類（単純と複雑）、症候、診断、治療と合併症を説明できる。  骨粗鬆症の病因と病態を説明し、骨折の好発部位を列挙できる。  関節の脱臼、亜脱臼、捻挫、靭帯損傷の定義、重症度分類、診断と治療を説明できる。  変形性関節症を列挙し、症候と治療を説明できる。  関節炎の病因と治療を説明できる。  骨肉腫とEwing（ユーイング）肉腫の診断と治療を説明できる。  腰椎椎間板ヘルニアの診断と治療を説明できる。  脊髄損傷の診断、治療とリハビリテーションを説明できる。  絞扼性末梢神経障害を列挙し、その症候を説明できる。  頸椎症性脊髄症（脊柱靭帯骨化症を含む）の神経症候を説明できる。  腰部脊柱管狭窄症の症候と治療を説明できる。  腰椎分離・すべり症の症候と治療を説明できる。  転移性脊椎腫瘍の好発部位と診断を説明できる。  四肢の基本的な外固定法を説明できる。  骨形成不全症と骨軟骨異形成症を概説できる。  コンパートメント症候群を概説できる。  骨・関節疾患のリハビリテーションを概説できる。  医師としての基本的姿勢と日本の医療の現状について概説できる。  再生医療の現状と将来展望について概説できる。  小児の整形外科について概説できる。</p>			

講義日程	別紙日程表を参照のこと
出席の取り扱い	出席状況把握システムにて毎講義出席をとる。 3分の2以上の出席がない場合は試験（本試験、追試験とも）の受験資格を与えない。
評価項目	到達目標の達成度 （基本的理解と知識の応用）
評価法	MCQ形式にて試験を行う。 本試験における合格基準は60点とする。
推奨参考書	<p>【購入を推奨する参考書】 標準整形外科学 共著 第12版 医学書院</p> <p>【その他、学習に有用な参考書等】 図解四肢と脊椎の診かた Hoppenfeld著 首藤 貴翻訳 医歯薬出版株式会社 整形外科医のための神経学図説 ー 脊髄・神経根障害のみかた、おぼえかた -Hoppenfeld著 津山直一監訳 新装版 南江堂</p>